志望校は広い視点で選ぼう！

多彩な教育を展開している私立高校

高校入試で、偏差値だけで志望校を選ぶのは得策ではありません。偏差値は入試で、最低どれぐらいの学力があれば合格するのかを表す指標で、高校の中身を表すものではないからです。

もちろん、偏差値も志望校選びには欠かせない情報です。しかし、それだけではなく、本当に自分が３年間通いたい学校を選ぶには、もっと別の視点から探してみることも大切です。例えば男女別学、共学のどちらが向いているのか、親子で検討していくことが大切です。「中学校まで共学だから、共学でいい」というのは、選んでいることにはなりません。別学、共学のそれぞれのよさを理解したうえで選ぶことが本当の選択です。これ以外にも学校選びの基準はたくさんあります。

私立高校なら校風や建学の精神にも気を配りたいところです。建学の精神がキリスト教の学校では、他校と異なる行事があり校風も違ってきます。それ以外にも部活動や行事は盛んなのか、学習体制はどうなのかもポイントです。さらに、通学の利便性も重要でしょう。最近では学校で勉強するのが一般的になっており、自習室などのスペースが設けられているのかもチェックしておきましょう。

グローバル化への対応に気を配る

最近では盛んに日本のグローバル化が言われています。みなさんが大学に進学して就職する８年後には、東京オリンピックも終わり、ますますグローバル化が進んでいることは間違いありません。将来、就職して海外勤務になることは、当たり前になりそうです。その一方で日本に住んで働く外国人も増えそうです。そんな時に海外の人たちとコミュニケーションをとり、お互いの文化を理解しあうことはとても重要なことです。

そんな時代がすぐそこまで来ています。大学に入ってからではなく、早くから異文化との交流を心がけ、意識しておくことが大切です。進学先の高校にそういった機会が用意されているのか、知っておくことも必要でしょう。ネイティブスピーカーの教員はどれぐらいいるのか、海外研修や留学制度はあるのか、英語を伸ばすのにどんなシステムをとっているのかなど、チェックしておくところはたくさんあります。

安田 賢治氏
（大学通信常務取締役情報調査・編集部ゼネラルマネージャー）
１９５６年兵庫県生まれ。私立灘中高、早稲田大学政治経済学部卒業後、大学通信入社。現在書籍の編集とマスコミへの情報提供を担当。サンデー毎日をはじめとする週刊誌などに記事を多数執筆している。著書は『中学受験のひみつ』（朝日出版）。

大学合格実績に注意を払おう

さまざまな学校選びの基準のなかで、大切なもののひとつが大学合格実績です。

現在、大学・短大をあわせた進学率は2014年に56.7％までアップしています。４年制大学だけだと51.5％になります。短大、専門学校をあわせると高校卒業後、高等教育を受ける人は８割にもなっています。

このように大学進学がごく当たり前のことになってきますと、当然ながら、どこの大学に進学できるのかが重要になってきます。各高校の教育力とよく言われますが、それを端的に表すデータのひとつが、大学合格実績にほかなりません。志望校選び